別紙

ＩＣＴ活用工事（浚渫工（港湾））計画書

当該工事において、施工プロセスの各段階および作業内容において、

ＩＣＴを活用する場合は、左端 のチェック欄に「レ」と記入する。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 施工プロセスの段階 | | 作業内容 | | 採用する  技術番号  （参考） | 技術番号・技術名 |
| □ | ①３次元起工測量 |  | |  | １　マルチビームを用いた深浅測量 |
| □ | ②３次元数量計算 |  | | | |
| □ | ③ＩＣＴを活用した施工 |  |  | | １　グラブバケットの平面位置と目標浚渫位置・震度をリアルタイムで可視化する技術  ２　カッターヘッドの平面位置と目標浚渫位置・震度をリアルタイ　ムで可視化する技術  ３　バックホウのバケットの平面位置と目標浚渫位置・震度をリアルタイムで可視化する技術 |
| □ | ④３次元出来形測量 |  | |  | １　マルチビームを用いた深浅測量 |
| □ | ⑤３次元データの納品 |  | | | |

注 1) ＩＣＴ活用工事（浚渫工（港湾））の詳細については、ＩＣＴ活用工事（浚渫工（港湾））特記仕様書によるものとする。

注 2) 具体的な工事内容及び対象範囲については、契約後、施工計画の提出までに、発注者へ提案・協議し決定する。